

特別支援教室のお便り

7月号

 杉並区立高井戸第四小学校
 特別支援教室拠点校

たかし教室直通03-5336-9522

2学期高四小エリア保護者研修会のお知らせ



- ◇ 日時 9月5日(木) 10:00~11:30
- ◇ 会場 高井戸第四小学校 体育館
- ◇ 内容 10:00~ 事務連絡 10:15~ 保護者向け研修会

テーマ『中学校の特別支援教室の指導と通常の学級における支援』

講師 杉並区立中瀬中学校 主任教諭 二之宮 睦先生

今回の高四小エリア保護者研修会は、杉並区立中瀬中学校主任教諭 二之宮 睦先生を講師にお招きして、『中学校の特別支援教室の指導と通常の学級における支援』をテーマに行います。

子供たちは、いずれ小学校を卒業して、中学生になります。中学校に入ったら子供はどのようになっていくのだろう。ちゃんとやれるのだろうか。支援とか理解とかどうなっているのだろう。先行きが見えない中で、不安もあると思います。

講師の二之宮先生は、区内で中学校特別支援教室の巡回指導をされています。中学生への指導の経験豊富な二之宮先生に ①中学校の特別支援教室のねらいや具体的な内容 ②中学校の通常の学級における支援 を中心に具体的なお話を伺い、研修を深めていく予定です。

高学年のお子さんをもつ保護者はもちろんのこと、低・中学年のお子さんをもつ保護者の方々にとっても、近い将来の見通しをもつ上で貴重な機会になると思います。皆様のご参加をお待ちしております。

9月の予定

7月 ・1学期の指導終了日 … 各学校最終指導日が異なります。
4月にお配りした『令和6年度1学期〇〇教室の指導日について』にてご確認ください。

9月 ・保護者研修会 5日(木) 10:00~11:30 高井戸第四小学校「体育館」
・2学期指導開始

月曜日グループ…9月19日(木) 火曜日グループ…9月24日(火)

水曜日グループ…9月25日(水) 木曜日グループ…9月26日(木)

金曜日グループ…9月20日(金)

※月曜日グループは、年間の指導回数を他の曜日と揃えるために変則的ですが、19日(木)を指導日に設定しました。(今年度、祝日が月曜日に多く、指導日が少ないため)

・9月10日(火)~9月18日(水)…保護者個人面談(全員対象)

字を書いたり板書したりするのが苦手... なんで??

◎授業が好きじゃないという子供に理由を尋ねてみると、「黒板を写すのが苦手...」と教えてくれることが多々あります。どうして黒板を写すのが苦手なのでしょう?

◎第一に、板書や教科書等の書き写しの苦手さの原因として想定されるものに、**眼球の動きの不器**

用さが挙げられます。

眼球の動きが滑らかではないと、対象を見るときに頭全体を動かさなければいけなくなります。それにより、

疲れやすくなり、書くのが億劫になってしまいます。

◎第二に、**書字そのものの苦手さ**も挙げられます。では、どうして苦手なのでしょう。文字を書くには様々な能力を必要とします。以下に書字を苦手とする要因として考えられるものを挙げます。

①形を捉える力が十分に育っていない。

まず書きたい字を頭に思い浮かべる。形を覚えられていない、あるいは形を捉える力が未熟な場合、この段階で苦勞をします。文字は直線と曲線、漢字だと“へんづくり”が合わさった構造になっています。したがって、形を捉えて暗記することが苦手だと、書字に苦勞することにつながります。

②鉛筆で書く際の力加減が上手ではない。

書きたい字を想起できたら、次に鉛筆等を持って書字という行動に移ります。ここで鉛筆を持つ際の力加減（指先の微細な動き）が適切にできないと、必要以上に力が入って疲れやすかったり、逆に力を入れられないと「とめ・はね・はらい」が上手にできなったりします。こうしたことが書字の苦手さに繋がると考えられています。また、筋肉は連動しているため指先の力加減の苦手さは、手首や肩回りの筋肉の柔軟性と関連している場合があります。これらの筋肉が未発達であったり硬かったりすると、指先の微細運動に影響が出てきます。

◎これらのような困り感があるお子さんに、特別支援教室では以下のような支援・指導を行っています。

○形を捉える力を高めるための活動の例

（ブロックを使った形合わせ、絵や文字の転写など）

○眼球運動の一例

（迷路なぞり、あやとり、数字タッチ、風船（ボール）キャッチなど）

○指先の力加減を意識する活動の一例。

（箸を使った物をつまんで動かす活動、裁縫や工作などの制作活動、積み木、ジェンガ、ドミノなど）

○腕周りの筋肉を使う活動

（水習字などで大きく手を動かす活動（画用紙に大きな字を書くなど）、ラジオ体操、両手に持ったタオルを跨ぐ運動など）

○これらの活動は、いずれも本人の苦手なことと向き合う支援方法になります。だからこそ、特別支援教室では、遊びの要素をできる限り入れた活動を展開するよう心がけています。もしご家庭でやられる場合は、本人と相談したり様子を見たりして無理のない範囲で行ってください。訓練的なことは、苦痛を伴う可能性が高いです。自己肯定感の低下を招きかねません。それによって二次的な傷害が起こる可能性もありますので、ご承知おき下さい。

7月の学習予定

◎小集団学習「みんなの時間」

「自分だけの時計を作ろう」

- ・手先を器用に使い、集中して課題に取り組む。
- ・デザインを工夫して制作活動に取り組み、自己表現をする。
- ・完成させた作品を友達と見せ合い、お互いの作品の良さを見付ける。

「同じ図柄を集中して覚えよう(記憶力を高める学習)」

- ・同じ図柄を判断するために集中する。
- ・活動中に出てくるさまざまな図柄を記憶しておく。
- ・勝ち負けのある活動の中でも、円滑なコミュニケーションをとる。